

2022年度(令和4年度)学校評価自己評価表

神辺東中学校区	校番75	福山市立竹尋小学校
最終更新日		2022年(令和4年)4月1日

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、各校の重点目標への取組が着実に進められ、子どもたちの主体的な学びの成果が表れている。教職員のやりがいや充実感の高さは教育の基盤となる。小中間で学力の伸び調査等にみられる課題を共有し ICT を活用した授業改善等により、基礎学力の定着を期待する。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標を持ち、学校生活全般に渡り主体的に頑張ることができ、全体的な規範意識は高い。 ・授業では共同的な学習に積極的に取り組んでいるが、意見の練り合いや合意形成、表現のスキル等が十分でない。また基礎学力の定着にも課題がある。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>問題解決能力・コミュニケーション力・意思決定力</p> <p>自己を認識し、「なりたい自分」をめざし、自分の人生を選択し、自分らしく表現することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わくわく感をもって課題を探究し自分らしく表現する子どもの学びの創造 ・「あいさつ」の大切さを実感し、家族や友達、教師や地域に向けて実践する力の育成 ・「ふるさと学習」のSDGs・ICT活用による改善 ・「家庭学習」で子ども主体の学びの推進のための発達段階に応じた取組の明確化と実践 ・「体力向上」に向けた子ども主体の取り組みの推進
---	---	--	---

III 自校

<p>ミッション</p> <p>「いつもニコニコピンピン明るく元気に」の「ニコピン精神」を反映させた教育活動の伝統を引き継ぎ、「知・徳・体」のバランスがとれ、郷土への誇りを持ち自立した児童を育てることで、地域・保護者から信頼される学校にする。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>問 問題解決力 コ コミュニケーション力 意 意思決定</p>
<p>学校教育目標</p> <p>よりよく生きる</p> <p>～自ら気づき、考え、行動し、学びの喜びを実感する子どもの育成～</p>	<p>めざす子ども像</p> <p>問 自らの課題に粘り強く向き合い、主体的に問題解決できる子ども</p> <p>コ 自分の夢や目標を語り、お互いを認め合い、共に高まり合う子ども</p> <p>意 常に最良の状態を求め、自ら適切に意思決定し行動できる子ども</p>
<p>現状</p> <p><児童></p> <p>まじめな生活態度で素直な児童が多いが、学年単学級で固定化された学級集団で生活しているため、自分の良さを発揮する機会が限られ、自己効力感や自分の思いや考えを豊かに表現する力が弱いという課題が見られる。学習面でも、基本的な学びに向かう姿勢や学習習慣は定着してきており、基礎学力も徐々に定着しつつあるが、子どもの豊かな発想による学びの深まりには課題があり、自分の思いや考えを自信を持って表現できる力をつける必要がある。</p> <p><授業></p> <p>教材分析により単元全体を見通した、つきたい力を明確にした授業づくりに取り組んでいる。また、児童の学習意欲を高める発問、構造的な板書、論理的思考を促すノートづくりの工夫等に取り組んでいるが、十分「課題発見・解決学習」の授業になっているとは言えない。児童自らが、意欲的に課題に向かい、主体的・協動的に課題解決に向かう授業の創造に取り組む必要がある。</p>	<p>研究</p> <p>教科等 国語科(算数科)</p> <p>主題・内容等 自主的・実践的な態度を身に付け、互いに認め合い高め合う児童の育成 ～児童が進んで選び表現する主体的な授業づくり～</p> <p>めざす授業の姿</p> <p>カリキュラムマップを基に授業で付きたい力を明確にした単元構想を持ち、児童自らが課題を発見、共有する中で、ペア学習やグループ学習が効果的に取り入れられ、児童主体で協動的、対話的に学びが進む授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が明確なねらいを持ち、自己の学びに関連付けた振り返りを行っている。 ・「課題発見・解決学習」の過程の中に、対話が位置づいた授業展開になっている。 ・自己選択・決定場面を設定し、児童が主体的に学び、表現している。

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立竹尋小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力 _セ 達 _成 評 _価 評 _価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 _セ 達 _成 評 _価 評 _価	総合 評 _価 評 _価	改善方策	
3	学びに向かう主体性を育てる。	★	継続	個々の学力が伸びる、子ども主体の授業づくりの推進	○児童が授業に主体的に取り組めるよう課題設定や授業展開を工夫し、授業改善を行う。 ○基礎学力の実態を把握し、向上を図る。	○職員アンケート「研修で学んだことを日々の実践に生かしている」肯定的評価90%以上にする。 ○国語科・算数科の学期末テストにおいて、40点未満の児童を20%未満にする。								
			継続	自己表現力の向上	○学年や教科を超えて、児童が様々な方法で自分の考えや思いを表現する活動や場を設定する。	○児童アンケート「感じたこと、考えたことを自分の言葉や方法で表現することができる」肯定的評価80%以上にする。 ○単元の中に書く・話す活動を位置づけ、その成果物を発信する。学期に1回以上他学年への表現活動を行う。								
3	自他を大切にできる心を育てる。	★	継続	自他を認め合う態度の定着	○縦割り班活動や委員会活、学校行事を通し異学年集団による活動を推進する。	○児童アンケート「違う学年の人と一緒に活動することが楽しい。」肯定的評価80%以上にする。								
			継続	故郷への愛着心の醸成	○生活科・総合的な学習の時間やクラブ活動において、地域の良さに触れることのできる活動を行っていく。	○児童アンケート「竹尋の人やもの、ことを大切にしたいと思う。」肯定的評価90%以上にする。								

3	健やかな体で、自らの目標に向かってよりよく生きる力を育てる。	継続	主体的な体力づくりによる体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ○体育科の授業の初めに、体力向上に関するサーキットを行う。 ○全校レクリエーション、各クラス単位によるレクリエーションを、児童主体で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体力テストで総合評価D・E率を20%以下にする。A・B率を40%以上にする。 ○「運動が好き」「進んで外遊びをした」など、肯定的な回答をした児童90%にする。 								
	継続	基本的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ○学期に1回以上、生活習慣とメディア利用に関するアンケートを実施する。 ○毎月、健康について学級指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「早寝」ができた児童を85%以上にする。 ○学級指導により学んだことを表現する活動を、学期に1回以上行う。 									
3	安心・安全な学校作りを進める	継続 ★	教職員の元気・笑顔、教育活動へのやりがいと達成感の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○会議の効率化、分掌事務の精選、見通しをもった取組、職員間の交流・連携を進める。 ○行事や活動などの振り返りを行い、評価をし合う場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員アンケート「日々の仕事に充実感を得られている」、「職員同士で連携を取って仕事を進めている」において、肯定的評価90%以上にする。 								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。